

## 第2回新塩尻市立平出博物館基本構想検討委員会議事概要

(1) 日 時 令和3年1月26日(火) 午後2時～4時

(2) 場 所 塩尻総合文化センター・大会議室

(3) 出席者 委員12名(全委員)、事務局

(4) 議事内容

① 第1回検討委員会の議事概要についての報告と確認

② 博物館を取り巻く社会環境について

「博物館を取り巻く社会環境について」の説明と討議を行い、社会状況及び現博物館の成果と課題について認識した。

### 【主な意見等】

- ・現状認識としての的確である。これをもとに、具体的な方向付けが必要である。
- ・博物館は、地域文化を創る核、地域の教育やコミュニティーの砦といった要素を持たなければならない時代となっている。
- ・現状認識や課題から、今後、具体的にどこに焦点を当てるが今後の論議の課題である。
- ・社会情勢を認識する視点で、市民を中心に置いているのが重要である。

③ 塩尻市立平出博物館の成果と課題について

「塩尻市立平出博物館の成果と課題について」の説明と討議を行い、成果や課題を設定した。

### 【主な意見等】

- ・全国の博物館共通の課題である。これを「塩尻らしさ」の設定の中でどのように乗り越えるかが課題である。
- ・博物館が地域の人を育てる場所でもあることが重要である。
- ・塩尻にどれだけ愛着を持つ人が増えるか、人を育てることが大事である。
- ・学校での子どもの学習支援がよい影響を与えているので、引き続き大切にする博物館であるべき。
- ・子どもたちの体験や自主学習を進めるために、積極的に子どもと接する機会や取り組みが必要である。実物に触れ、体験できる博物館が検討される。
- ・博物館の周囲の環境を考えることが大切である。交通を含めた施設へのアクセスも重要な課題である。
- ・若い世代や女性の博物館離れは一般的な傾向であるが、子どもの時の来館経験が再び高齢になれば回帰するのか。若い世代は何を動機に判断するのかの検討が必要である。塩尻の子どもには博物館の意義が伝わっていると考えられる。
- ・博物館はどのようなことが出来る場所なのかを伝えるための情報発信が必要である。
- ・人員等の制約を考慮すると、「どこまでできるか」の視点で事業を絞ることが必要

である。学校との連携が必要である。

- ・博物館が人づくり、コミュニティーの中核であれば、博物館スタッフのあり方も変わってくる。
- ・博物館の展示は一見のみ。利用者を増やす取り組み、人づくりに重点を置くとしても、重要なのはその機能や運営スタッフである。
- ・博物館はそこにいる人が問題であることを認識し、人の大切さ、確保の意見を委員会として示すことが必要である。
- ・博物館の存在や事業を明確に示し伝えることが必要である。現博物館は、限定されたイメージがある。
- ・考古学は手法を示すものである。市民が時代・歴史を考えるための博物館が必要である。手法で博物館を規定するものでない。
- ・行きやすさなど機能を発揮するための立地および周辺環境を含めた対応が必要である。

#### ④ 市域の地域遺産と新しい博物館の対象分野について

「市域の地域遺産と新しい博物館の対象分野について」の説明と討議を行い、対象分野を「**市域の原始から現代に至る人々の営みとその風土**」と決定し、**人文系博物館**と規定した。

#### 【主な意見等】

- ・対象分野を定めた中で、展示などは目的を絞って行うこととなる。
- ・感覚的な部分を取り入れることが子どもや女性にとっての大切な要素であることから、営みという対象設定は有効である。興味を惹き親近感がもてるテーマ設定が重要である。
- ・遊びの場、くつろげる場といった感覚でとらえることも必要である。
- ・広い時代設定の中で、塩尻らしさ、個性化したものなど、テーマ・焦点を絞り展示等を行うことが必要である。
- ・市内の博物館全体を捉えた中で位置づけ、関連づけていくことが必要である。
- ・常設展より企画展をメインに置き、市民の関心や興味を惹くテーマで、歴史分野をはじめ自然史など含めた様々な企画展を行うことが重要。
- ・事例のような塩尻らしい歴史的特徴にスポットをあてた展示の博物館が良い。
- ・施設スペースの課題から考えても、人文系の博物館でよい。
- ・歴史民俗と地理地形・自然とは切り離せないものであり、一体の施設であることが望ましいが、スペース等を考慮すると自然分野を取り入れることは難しいことも理解できる。人文系の博物館であっても、これからは分野間及び館相互の連携を図ることを強く望む。
- ・企画展などで、自然分野の資源を生かし、分野間連携した取り組みが望まれる。
- ・自然があって歴史がある。この分野の交流が子どもたちの新しい発想につながる。新しい博物館は歴史民俗を主体とした人文系博物館としたうえで、委員会としては、自然科学分野と交流することを求めたい。

- ・市域の博物館の中心になる人的対応を含めた基幹博物館が必要である。
- ・博物館の役割や機能を果たすためには人的な対応が必要となる。委員会としての意見を示していく。
- ・市民や地元の人が気軽に立ち寄れ、集える場所、人が集まる空間たり得る博物館をつくる必要がある。
- ・すべての要望を実現することは困難であり、選択することが必要である。
- ・展示の仕方も考え工夫することが大事である。
- ・ターゲットとして、子どもと熟年層が考えられる。子どもに対しては、どう楽しませるかが重要である。話し方、組み立て方が大切である。専門家以外の人が、知らない人の気持ちや発想を持って取り組む方がわかりやすいものになることもある。
- ・観光客は、地域の人に愛されるところに行ってみたいと考えるので、
- ・家族内では女性の主導権が圧倒的。関心や興味を惹く取り組みが必要である。